

ともしび通信

発行：NPO法人没イ手の会・京都



庭に水仙の花が咲き始めます

もうすぐそこに冬が！



結婚生活パート3

小田原のお店はバーと言うよりはクラブといったほうがピッタリのカウンター席5席、テーブル席7席の広いお店です。開店2日前から入店し準備にかかりましたが、飲み物も銀座の時と変わらない高レベルなものばかりです。いよいよ開店日が来ました。

お客さんが6時開店から次々と来られ満員が閉店まで続き私は疲れましたが、そうも言っていられないので夢中で働きました。飲み物はほとんどビールとウイスキーの水割りです。私の仕事はオツマミをどのようなものにするかだけです。お客さんは小田原近辺の商店主、会社の社長さん、箱根が近いので箱根の旅館のご主

人と上客ばかりですね。

一週間ほどした時初めてのお客さんですが、スマートな60前後のお客さんが来ましたがホステスの皆がそのお客さんに緊張気味なので、私は不思議に思い一人のホステスに「あのお客さんは誰？」と聞くとそっと「ママの彼氏」と教えてくれ、「あの人はこの小田原のヤクザの親分だから気をつけてね」と言われました。

「え！ママの彼氏がヤクザの親分？」「そう、錦政会のNo.2で小田原の親分で錦政会は熱海が本拠地で稲川と言う人が親分なの、あの方は田中さんといつて、錦政会ではNo.2だから気を付けてね」とまた言われまして。この店はヤクザが経営している店か、とんでもないところに入ったものだど驚きと戸惑い

で、暫くはぼーとしていました。“ビール5本”の注文の声で我に返り、仕方ないか、どうにかなるだろうと自分に言い聞かせて、ヤクザの世界とはどんな世界なのか考えている暇もなく忙しくその日も過ぎていきました。

後で知ったのですが、錦政会とは稲川角蔵という人が熱海の愚連隊から起こした、ヤクザ集団で西の山口組、東の錦政会と言われる程大きな組織で、東京までも進出しているそうです。銀座にいた時はそんなヤクザなど見たことも聞いてこともなかったもので、ただただ驚いたのと、自分のおかれていた立場も忘れ少し興味を持って見ていました。怖さも有りましたが、田中さんがとても店の中では紳士的でしたので興味を持ったのかもしれない。

込んでしまったようです。私の仕事はあくまでバーテンダーですが、ママに頼まれ組の事務所に顔を出すことも有り、自然と准構成員のようになって行きました。ヤクザのことを少しお話ししましょう。

小田原の錦政会（稲川組）は熱海の本部に近いことも有り、他の組が入ってくることはなく、他の組との抗争ということが有りませんでした。そうした意味では静かなものですが、小田原の組織は親分が居り、その下に幹部と呼ばれる者が5人程いて、その下に若い衆が20人程います。なんで稼いでいるかと言うと、賭博場を開帳してその諸場代とか、興行を例えば村田英雄歌謡ショーとか、美空ひばりは山口組の田岡組長が親代わりをしていましたので呼べないですが、その他の歌手は殆ど興行で呼んで、その

売上とかで食べていますが、そのテラ銭は殆ど親分に行き、少しの手当が幹部に行くようになっていました。ですから幹部と言ってもお金にはいつもびいびいしていましたね。では幹部や若い衆はどうして食っているかと言うと、素人の女の子を引っ掛けて、箱根の芸者にしてその上をかりをかすめて小遣いにしていました。それも一人ではなく最低二人は持つていました。ヤクザは女の子にモテる要素があり、素人の娘はすぐに引っかかります。かっこいい姿と、話がとても上手で、娘を惹きつけるものを潜在的に持っているのです。うね。驚くほどうまく引っ掛けます。

芸者に売られても逃げないのが不思議でなりません。それは幹部クラスで、若い衆はそんな芸者でもしたら、兄貴分からどつかれますから主



籠谷 弘

に夜、小田原の駅前で屋台を出して、ラーメンとかおでん、焼き鳥を売って生活費にしてみました。そのため私はそんな若い衆に助けられたことがあります。ある日、仕事帰りに駅前でチンピラに絡まれ喧嘩になりそうになった時、屋台の若い衆が「籠谷さんがからまれている」と5、6人飛んできてそのチンピラをボコボコに殴りつけたことが有り、それ以来私は大手を振って夜の小田原を歩くことが出来るようになりました。誰もがあの人には近づくと云うことですね。
 ・・・ヤクザ社会の闇という話は次号で！



歌声喫茶に参加して！

洛西の木々も紅葉が始まり秋の参加で楽しく歌い合いました。何時もの籠谷さんの脳トレ？でも皆で笑いあえる幸せ。こんな、ひとときがいいですね。

私事ですが、夫の四十九日を先月末に済ませ、3ヶ月ぶりの参加でした。歌わせて頂き、色々な事を乗り越えていかなきゃ！と思わせて頂きました。今後ともよろしくお願い致します。

君
手術後の 赤き傷跡 炎暑の

無事祈る 優しくたたむ 半袖パジャマ

喪のハガキ 書いてるうつつ 夢ならば

菅沼清子

十一月十九日の歌声喫茶は全国的にコロナ感染者が急増する中、20名の参加でした。最高気温26.9度という暑い日で窓や戸を全開！換気はバッチリ！

マスクをして歌うのは思い切り歌えないのですが仕方ないですね。フェイスシールドを持参して歌う人あり、配ったマスクガードは使いにくい、イヤなかなか良いので分けて欲しい：様々です。

この日も新しい歌を覚えたり懐かしい歌をリクエストして楽しましたが、早くマスク無しで皆さんの笑顔を見ながら歌声を響き合わせたいですね

光木和子



歌声喫茶 1月の予定

「西院」(第2、4木曜日)

1月14日、28日

「洛西」(第1、3木曜日)

1月7日、21日

楽々亭 第6回 12月の予定

12月15日(火)

西京区役所洛西支所会議室

1時30分～3時30分



ともしび通信

発行元：NPO 法人没イチの会・京都

住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●ともしび通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。